

輸出事業計画

※申請者名：：全国納豆協同組合連合会、品目：納豆

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- 国内市場では納豆の販売価格が低迷し、特売品として扱われることが多く利益を出しにくい。
- 日本食ブームや健康志向の高まりにより、海外で納豆の認知度が上昇。
- 欧米や中国などで、日本食材の需要増加に伴い、納豆輸出量は増加傾向。
- コロナ後の世界的な健康志向により、納豆の潜在需要は高い。
- 2023年に国際規格「バチルス属発酵大豆製品」に納豆が正式に盛り込まれ、輸出基盤が整備された。

【課題】

- 輸出相手先での保存・流通国内市場の価格競争が激しく、輸出に向けた収益性確保が難しい。
- 比較的納豆食の受容性の高い中国から、福島原発事故を起因とした放射能汚染の風評による輸入規制が未だに解除されていない。

2. 輸出事業計画の取組内容

- 原材料コスト安定化のため播種前契約や円安・資源高騰リスク情報共有体制を構築。
- 国内人口減少を踏まえ、納豆製造過程・健康機能などを多言語化しHPやパンフで海外発信。
- ホームページ『Natto Power』で製造方法・健康機能・歴史・料理活用を公開、商談用リーフレットが整備されているので、その周知を輸出相手国に行い、国内会員には活用を促す。
- 国際規格「バチルス属発酵大豆製品」に納豆が盛り込まれていることの優位性を背景に、世界標準のパッケージとして「Natto」表記を会員に促す。
- 冷凍納豆の解凍・食べ方を多言語で周知。YouTubeで世界の郷土料理と納豆との融合調理映像を配信。

輸出事業計画

※申請者名：：全国納豆協同組合連合会、品目：納豆

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

会員企業や輸出促進委員会、JETROとの意見交換を通して、各会員の輸出拡大に資する具体的な戦略を立て、共有する。



計画に基づき、HP、SNSでの情報発信や、納豆の国際規格化等を通じ、会員の輸出拡大、及び輸出着手を後押しする。

会員やJETRO等からのフィードバック等を通じて検証、改善した計画に基づき、各会員の輸出拡大に資する活動を実行する。

輸出の進捗状況や市場動向の変化について会員・JETRO・GFP等で把握した情報やアドバイスを踏まえ必要に応じて計画見直しを行う。

4. 輸出目標額

	【現状】 (令和6年度)	【目標】 (令和10年度)
輸出額(千円)	974,220	1,169,000
輸出量 (t)	1,812	2,100
輸出先国	中国・米国	中国・米国